

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育方針 校訓「自主・創造・連帯」のもと、「翔べよ遙か狭山生」をキャッチフレーズとして、グローバルセンスとローカルセンスを兼ね備え、高いコミュニケーション能力（リーダーシップ・フォロワーシップ）や心優しき人間性を持って、地域社会においてパートナーシップを構築しけん引する「自主創造型グローバルリーダー」を育成する。 1 学力向上と第一志望の進路実現をめざし、「チームさやま」として教職員が一丸となって、頑張る生徒を応援し課題を抱える生徒を支える学校 2 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域連携（大阪狭山市唯一の高校）の取り組みやウェルビーイングをテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高める教育を実践する学校 3 学校行事やクラブ活動など協働的な活動を通して、自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高める学校

2 中期的目標

○令和8年度入学生からの文理探究科(社会共創)がスタートする。探究的な学習を中心とした深い学びの実施や地域社会との交流等により主体的に学びに向かう生徒の人間性を伸長させ、ウェルビーイングの向上に寄与する資質・能力の育成をめざす。また、狭山高校が生徒・教職員や地域社会を含む、多様な個人が、狭山高校との関わりを通じて、ウェルビーイングを感じることができ場となることをめざす。 1 さらなる学力向上と進路保障 (1)「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに組織的かつ恒常的に取り組み、教員・生徒双方が学ぶ楽しさをともにする授業をめざす。 ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、探究的な学びや観点別学習評価についてさらに研究・研鑽を進める。 ＊単元の逆向き設計により、本質的な問いを設定。①思考の発芽（図書館・インターネットの活用）、②思考の見える化（学習支援ソフト・グループワーク）、③思考のゆさぶり（発表・議論・パフォーマンス課題）など、「思考力・判断力・表現力」を育成する授業へと転換をはかる、また、振り返りシートを通して自己理解を深めたり、振り返りシートを共有するなどして学び方を協働的に学んだりすることで、「主体的に学びに向き合う力」を育成する。 イ 1人1台端末や最新型プロジェクター等の ICT 機器を活用し、対話的に思考を深めるとともに、授業の振り返りや学びの定着の確認を行い、計画的かつ組織的にこれまでの授業実践に ICT を取り入れる。個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 (2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。 ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベント、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びにより「わかる・できる」を体感させる。各種講習等への参加、図書室や自習室の活用を習慣化し、自主的・自律的な学習習慣の確立をめざす。 ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミを実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。 ※生徒向け学校教育自己診断「授業満足度」、「授業の工夫度」、「カリキュラム満足度」を令和 10 年度に3項目すべてにおいて 88%以上の維持・向上をめざす。 （「授業満足度 R5:88.6%、R6:88.3%、R7:85.6%）「授業の工夫度」（R5:92.4%、R6:92.0%、R7:91.7%） 「カリキュラム満足度」（R5:89.1%、R6:90.0%、R7:86.8%） ※進路ガイダンス/進学講習の充実を令和 10 年度まで 90%以上の維持・向上をめざす。（R4:94.4%、R5:93.9%、R6:94.8%、R7:91.4%） ※教職員向け学校教育自己診断「系統的な進路指導の実施」を令和 10 年度に 80%以上の維持・向上をめざす。（R4:68.1%、R5:87.5%、R6:83.3%、R7:81.6%） ※国公立・関関同立・産近甲龍 合格者数について、令和 10 年度までにのべ 160 人以上をめざす。（R5:158 人、R6:122 人、R7:168 人） 2 キャリア教育のための環境づくり (1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。 ア 探究的な学習とキャリア教育の連携を意識した3年間の系統だったプログラムを展開し、将来の生き方を見据えた進路決定につなげる。 イ 大阪狭山市唯一の高校として、地域の学校や行政、団体等との連携を密にしたボランティア活動や課題解決型学習等を通じて、踏み込み(挑戦)や振り返りの実践機会を仕組み、自己理解を深め、協働性、利他性、社会参画意識を高める。 ウ 国際交流（姉妹校連携）や実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域社会と連携したウェルビーイング等をテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する。 エ 読書活動を推進する（探究的な学びとしてビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る）。 ※生徒向け学校教育自己診断「キャリア教育満足度」を令和 10 年まで 90%以上の維持・向上をめざす。（R5:93.9%、R6:94.8%、R7:91.4%） (2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。 ア すべての生徒に、人権や命の大切さ、多様性を尊重する教育を推進し、自他の権利を尊重する態度を育てる。 イ 1人1台端末を活用し、情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ※生徒向け学校教育自己診断「人権（人権の尊重）」の肯定的評価を令和 10 年度まで 85%以上の維持・向上をめざす。（R5:88.8%、R6:87.3%、R7:87.4%） ※教職員向け自己診断「人権尊重に学校全体で取り組む」を令和 10 年度に 80%以上をめざす。（R5:79.2%、R6:74.4%、R7:73.0%） (3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。 ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSW とも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、入学以前から生活環境に課題のある家庭やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートを活用し、早期発見・把握に努め、適切な支援につなげる。 イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力（リーダーシップとフォロワーシップ）と心優しき人間性を高めるために、学校行事、部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。 ※生徒向け学校教育自己診断「学校生活満足度」令和 10 年度まで 90%以上の維持・向上をめざす。（R5:91.5%、R6:91.7%、R7:91.3%）

同じく「相談体制満足度」を令和 10 年度まで 75%以上の維持・向上をめざす。(R5:78.6%、R6:75.3%、R7:74.6%)

3 組織力の向上と働き方改革に向けた取組み

- (1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。
- ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、組織的な対応を推進する。
- 地震・台風等の自然災害、インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。
- (2) 学校に関わる団体（PTA、同窓会、後援会、地域行政、地域住民）との連携を強化し、広報・情報発信に取り組む。
- ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。
- イ 地域の行事への参加や地域の公的機関や NPO 等と連携した取組みを進め。地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し交流を深める。
- ※教職員向け学校教育自己診断「学校運営の勤務充実度」を令和 10 年度に 90%以上の維持・向上をめざす。(R5:90.2%、R6:84.8%、R7:87.7%)
- ※保護者向け学校教育自己診断「学校満足度」を令和 10 年度まで 90%以上の維持・向上をめざす。(R5:90.8%、R6:91.7%、R7:92.9%)
- (3) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進し、教職員同士の対話の時間、授業力向上に取り組む時間、生徒と向き合う時間を確保する。【新設】
- ア 校務運営について、引継ぎ・連携・協力体制を重視した組織的な業務の見直しや ICT を用いた効率化を図る。
- イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築することで、時間外等在校時間の縮減を図る。
- ウ ゆとり週間等の取組を通じて、各種休暇の計画的取得を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
Ⅰ 更なる学力向上と進路保障	(1)「主体的・対話的で深い学び」をめざし、「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学びに向き合う力」を育成する授業づくりに組織的かつ恒常的に取り組み、教員・生徒双方が学ぶ楽しさとともにする授業をめざす。	(1) ア 調べ学習・グループワークを取り入れ、発表、議論・パフォーマンス課題を通じて「思考力・判断力・表現力」を向上させるとともに、探究的な学びや観点別学習評価についてさらに研究・研鑽を進める イ 1人1台端末や最新型プロジェクター等の ICT 機器を活用し、対話的に思考を深めるとともに、授業の振り返りや学びの定着の確認を行い、計画的かつ組織的にこれまでの授業実践に ICT を取り入れる。個別最適な学びと協働的な学びの充実を進める。 授業研究・研修部が中心となり、学校全体で以下の取り組みを推進する。 ・授業見学週間、授業力向上研修などを計画的に実施し、生徒の思考を促す授業や生徒の主体性を伸ばす授業の工夫を行うとともに、具体的実践を共有する。 ・本校生徒の強み・弱み(つまずき)を各学年・各教科等が共有し、効果的な学習につなげる。 ・校内外の実践を共有して「探究的な活動」や「総合的な探究の時間」の理解を深めるとともに、指導や評価の研究・研鑽を進める。	(1) ア、イ ・生徒向け学校自己診断結果の授業満足度86%以上 [85.6%] ・生徒向け学校自己診断結果の授業の工夫度88%を維持 [91.7%] ・授業アンケートの教員平均 3.4以上 [3.4] ・公開研究授業週間を 年2回実施 ・教員研修の実施3回 ・先進校を2校以上視察し、情報収集・共有を行う 【新規】	

	(2) 第一志望を実現する進路指導を進め、個別指導、家庭学習指導の充実を図ることで、夢がかなう進路保障に結び付ける。	(2) ア 受験用学習教材や模擬テスト、各種外部検定を活用し、3年間を通じた客観的な学力把握とデータに基づく精度の高い受験指導を行う。 イ 早朝、放課後の講習・補習及び長期休暇中の学習イベント、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びにより「わかる・できる」を体感させる。各種講習等への参加、図書室や自習室の活用を習慣化し、自主的・自律的な学習習慣の確立をめざす。 ウ 国公立大学・難関私立大学ゼミを実施し、難関大学への入試に必要な力を育成する。 ・「狭山高校進路メソッド」をもとに、進路指導部が中心となり、各学年、各教科等との連携を密にして生徒の実態やニーズを捉え、様々な取組を具現化する。 ・講習やゼミ、補習等の学習機会への参加しやすい環境を整え、一人ひとりの生徒の希望する進路や学習状況に応じて参加を促し、自律的な学習習慣を身に付けさせる。 ・学習支援クラウドサービスのポートフォリオ機能を活用して、LHR を活用して学習の節目や学期ごとにキャリアパスポートを作成し、懇談等で活用して、生徒のキャリア形成及び進路決定・進路実現に向けた主体的な取組を支援する。 ・多様化する大学入試等の最新情報について、研修や学年会、学習支援サービスを用いる等して教職員間で共有し、進路実現に向けた指導・支援を充実させる。 ・特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」について、進路指導部と学年団が連携してその動向や情報を収集し、教職員間で共有するとともに、各教科・分掌等が連携した全校的な協力体制構築に向けた土壌づくりを行う。 ・拡大経営会議を開催し、学習指導、進路指導、学校行事・学年行事等とのバランスに配慮した「学校行事等一覧(仮称)」を完成させる。	(2) ア・生徒向け学校自己診断結果のカリキュラム満足度 87%以上 [86.8%] ・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導 80%以上の維持向上 [81.6%] イ・生徒向け学校自己診断結果のキャリア教育満足 90%以上維持 [91.4%] ウ・国公立大学・関関同立・産近甲龍 合格者:のべ 150 人以上 [168 人] ・教員向け学校自己診断結果の進路実現に向けた細やかな指導の向上 [75.0%] ・教員向け学校自己診断結果の系統的な進路指導の向上 [81.6%]【新規】 ・「学校行事等一覧(仮称)」を作成【新規】	
2 キャリア教育のための環境づくり	(1) 夢をえがく力、夢をかなえる力を養成し将来に向かって飛躍できるプログラムを展開する。	(1) ア 探究的な学習とキャリア教育の連携を意識した3年間の系統だったプログラムを展開し、将来の生き方を見据えた進路決定につなげる。 イ 大阪狭山市唯一の高校として、地域の学校や行政、団体等との連携を密にしたボランティア活動や課題解決型学習等を通じて、踏み込み(挑戦)や振り返りの実践機会を仕組み、生徒の自己理解を深め、協働性、利他性、社会参画意識を高める。 ウ 国際交流(姉妹校連携)や海外長期留学制度の案内及び支援、実践的な英語教育を通じて国際感覚・国際コミュニケーション能力を伸ばすとともに、地域社会と連携したウェルビーイング等をテーマにした協働的探究学習を通して、グローバルセンスとローカルセンスを高めるプログラムを展開する。 エ 読書活動を推進する(探究的な学びとしてビブリオバトルをさらに活性化させ読書の質と量の向上を図る)。	(1) アイウ ・生徒向け学校自己診断結果の「国際交流の魅力」 80%以上維持 [86.1%] ・生徒向け学校自己診断結果の「ボランティア意識」 75%以上 [74.3%] ・狭山池クリーンアクション等地域の活動を紹介し、参加を促す エ 探究的な学びの一環としてビブリオバトル大会を実施	

		・校外の実践を共有して「探究的な活動」や「総合的な探究の時間」の理解を深めるとともに、指導や評価の研究・研鑽を進める。(1)1再掲) ・総探・企画部が中心となって、「探究ハンドブック(仮称)」を作成する。随時、授業実践を振り返り、評価・改善を行うとともに、学習プログラムやハンドブックをブラッシュアップし、次年度につなげる。 ・外部連携の受付窓口を校内に設置する。コーディネーション会議で、外部連携に関する校内体制や受付～打ち合わせ～連携実施の流れを整え、試行し、次年度につなげる。本校の教育活動への協力者・外部連携先を増やし、生徒の学びを支える。	・「探究ハンドブック(仮称)」の作成とブラッシュアップ ・外部連携の校内体制の整理及び構築	
	(2) 互いの違いを認め合う人権尊重意識の向上に取り組む。	(2) ア すべての生徒に、人権や命の大切さ、多様性を尊重する教育を推進し、自他の権利を尊重する態度を育てる。 イ 1人1台端末を活用して情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。 ・「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。 ウ 教職員研修を実施し、教職員の人権意識の向上と人権課題についての理解を深める。	(2) アイ ・生徒向け学校自己診断結果の人権意識 85%以上維持 [87.4%] ウ・教職員向け学校自己診断結果の人権への取組み 75%以上をめざす [73.0%]	
	(3) 学校生活の充実に向けた体制づくりに取り組む。	(3) ア 担任、教科、部活動等の生徒情報を集約し、SC・SSW とも連携しながら、教育相談支援委員会のコア会議を定例開催とするなど生徒支援体制を充実させる。特に、入学以前から生活環境に課題のある家庭やヤングケアラーの実態については、高校生活支援カードや日常生活アンケートなどを活用し、早期発見・把握に努め、教育相談、生徒指導、支援教育につなげる。 ・スクールカウンセラー等による教員研修を年1回以上実施し、生徒一人ひとりに対する理解を深め、より適切な対応に努める。 イ 自尊感情を育み、自主性を伸ばし、コミュニケーション能力(リーダーシップとフォロワーシップ)と心優しい人間性を高めるために、学習との両立を配慮した上で部活動、生徒会活動等の活性化を図るとともに、部や生徒会執行部に所属していない生徒に活躍の場を多く与える工夫をする。 ・生徒会執行部のミーティングを定期的開催し、執行部の連携を深めるとともに、学校行事等に関する生徒のニーズを把握し、生徒の自主性を引き出す特別活動の運営を進める。	(3) ア・生徒向け学校自己診断結果の教育相談満足度 75%以上維持 [74.6%] ・保護者向け学校自己診断結果の相談体制満足度 75%以上 [69.7%] ・教員向け学校自己診断結果のカウンセリングマインド 85%以上維持 [83.3%] ・教育相談に関する教員研修実施を年1回以上実施 [1回] イ・生徒向け学校自己診断結果「学校生活満足度」90%以上維持 [91.3%] ・部活動加入率(2学期末) 75%程度維持 [74%] ・生徒向け学校教育自己診断結果「行事」90%以上維持 [94.4%] ・生徒向け学校教育自己診断結果「生徒会」85%以上維持 [85.6%]	
3 組織力の向上と働き方改革に向けた取り組み	(1) 教職員全員が参加する「チームさやま」体制を発展させる。	(1) ア 教職員の人権意識を高め、いじめ・体罰・ハラスメント「0」を継続するために教職員研修を実施するとともに、迅速かつ組織的に対応する。加えて、地震・台風等の自然災害、インフルエンザ等の感染症、食物アレルギー、熱中症等、生徒の安全や健康に関する情報の共有及び対応力向上に資する教職員研修を行う。	(1) ア・生徒向け学校自己診断結果の「いじめへの対応」 85%以上維持 [89.4%] ・教職員向け学校自己診断結果の危機管理 75%以上 [73.4%]	

	(2)学校を取り巻く関係団体（PTA、同窓会、小中学校、後援会、地域行政、地域住民）との関係強化と広報・情報発信に取り組む。 (3)大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進し、教職員同士の対話の時間、授業力向上に取り組む時間、生徒と向き合う時間を確保する。 【新規】	(2) ア 中高連携として、中学校との授業交流・クラブ交流を実施し、教育内容の充実につなげるとともに広報・情報発信に取り組む。 イ 地域の行事への参加や地域の中学生や市民の方々に狭山高校の魅力を発信し交流を深める。 ア 校務運営について、引継ぎ・連携・協力体制を重視した組織的な業務の見直しや ICT を用いた効率化を図る。 イ 部活動方針を遵守し、適切な休養日等を設定し、適切な指導・運営体制を構築することで、時間外等在校時間の縮減を図る。 ウ ゆとり週間等の取組を通じて、各種休暇の計画的取得を推進する。	・年2回の防災訓練実施 [2回] ・生徒の健康・安全予防に関する職員研修を年3回実施。[3回] (2) ア 体育祭・文化祭などの学校行事や、クラブ活動、授業等の中で交流を実施。 イ 地域行事への参加 ア ・教職員向け学校自己診断結果の勤務の充実度 85%以上[87.7%]【新規】 ・教職員向け学校教育自己診断結果「日常的な話し合い」75%以上 [75.1%]【新規】 ・教職員向け学校教育自己診断結果「評価・点検を計画に生かす」70%以上 [67.3%]【新規】 ・教職員向け学校教育自己診断結果「分掌や各学年間の連携」75%以上[71.4%] ・教職員向け学校教育自己診断結果「職場の人間関係」85%以上 [83.3%]【新規】 イウ ・年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。 [7人]【新規】 ・年間時間外在校等時間が360時間を超える人数を前年度よりも減少させる。[29人]【新規】	
--	--	--	--	--